

学校名

大阪府寝屋川市立第四中学校

学年

三年 二組

氏名

守藤 優紀菜

題名

消費税の未来

中学生である私にとって、一番身近な税である消費税。その税率が、八パーセントから十パーセントに引き上げられたのは、記憶にも新しい。そこで、理由が気になった私は、消費税について調べることにした。

まず、衝撃を受けたのは、消費税が導入されたのが平成元年であること。つまり、私の両親が子どもの頃にはなかったのである。導入当時、世間は大きな騒ぎとなり、反対運動

全国納税貯蓄組合連合会・国税庁

も起きたそうだが、なぜ消費税が導入されることになったのか。それは、基本的な税負担は、一国民ができる限り幅広く公平に分かち合うことが望ましいし、どの考えからであらう。それまでの所得税中心では、働く世代に税負担が偏っていたのだ。

今までは、買うものの以外の値段を支払わないうちがいけなかったり、細かい小銭で支払わないうちがいけなかったりすること、消費税がなければ良いのにと、思うことがあった。し

かし、「公平」を考えたつくられたものだと
 知った今は、快く払うことができる。
 また、税にはたくさん助けられている
 と思う。税金によって上下水道が整備されて
 いないと、朝起ききれいな水で顔も洗えな
 い。道路や信号が整備されていないと、安全
 に学校へ行くこともできない。過ごしやすい
 学校環境も、新品の教科書もない。
 そのような税が使われているもので今一番
 話題になっているのは、年金だろう。少子高
 齢化が問題となっている今、一人の高齢者の
 年金をほぼ一人の働く世代の人が支えなくて
 はならなくなっているというのをよく耳に
 する。これから、高齢者を支える立場となる
 私にとって、「働いて税を納めたところで、
 私が高齢者になったときに年金はもらえるの
 だろうか」という疑問はある。
 そこで頼るべきところは、消費税ではない
 だろうか。消費税が十パーセントに引き上げ
 られた現在でも、消費税での税収がわずかに

全国納税貯蓄組合連合会・国税庁

上回っているとはいえず、所得税での税収も
 大きな割合を占めている。これから、高齢者
 の割合が増え、働く人の数が減るのは明白で
 あるにもかかわらず、このままの状態を続け
 ていけば、国の借金が増えるのは当たり前だ
 ろう。現在でさえ、千兆円近くの公債残高を
 抱えているというのに。「公平」を考えてつ
 くられた消費税の税率をさらに引き上げれば、
 特定の人に負担がかかることなく、国が年金
 を支払ったり、公債を返済したりすることが

全国納税貯蓄組合連合会・国税庁

できろのではないだろうか。そのためには、
 国が国民に税金の使い道を示し、納得を得て
 から税率を引き上げるべきだとは思う。それ
 で、公平に集められた税金が、困っている人
 や立場の弱い人などに行き渡り、国が借金を
 することなく、全ての人が快適に過ごすこと
 ができる世の中になれはいいなと願う。